

平成29年度 日本歯科大学東海地区歯学研修会

今後の歯科保存療法を考える、 歯科最前線



【日 時】

平成29年10月15日(日)

【場 所】

ホテル キャッスルプラザ
(愛知県名古屋市)

【主 催】

日本歯科大学校友会
日本歯科大学歯学会
東海地区日本歯科大学校友会

ホテル キャッスルプラザ 案内図



名古屋市中村区名駅 4-3-25

☎ 052-582-2121

アクセス

- 電車の場合：JR名古屋駅広小路口より徒歩7分
 名鉄名古屋駅北改集札口より徒歩7分
 近鉄名古屋北口よりより徒歩7分
 地下鉄国際センター駅4番口より徒歩5分
- 車の場合：名古屋高速錦橋出口より車で3分

平成29年度 日本歯科大学東海地区歯学研修会

開催日：平成29年10月15日(日)

会場：ホテル キャッスルプラザ

11:30～	受付開始		
12:00～	開会の辞	愛知県日本歯科大学校友会副会長	星野周二先生
	担当県挨拶	愛知県日本歯科大学校友会会長	田中正雄先生
	校歌斉唱		
	来賓挨拶	日本歯科大学理事長・学長	中原泉先生
		日本歯科大学校友会会長	近藤勝洪先生
		日本歯科大学歯学会会長	渡邊文彦先生

〈テーマ〉 今後の歯科保存療法を考える, 歯科最前線

12:30～13:25	講演1 「確実性の高い歯内療法実践のための技術革新」		
		生命歯学部歯科保存学講座教授	五十嵐勝先生
13:25～13:35	質疑応答		
		〈休憩10分〉	
13:45～14:40	講演2 「今こそメタルフリー接着修復を活かして！」		
		生命歯学部接着歯科学講座教授	奈良陽一郎先生
14:40～14:50	質疑応答		
14:50～15:45	講演3 「歯周治療は変わるか？」		
		附属病院総合診療科教授	仲谷寛先生
15:45～15:55	質疑応答		
15:55～16:00	閉会の辞	愛知県日本歯科大学校友会副会長	伊勢美樹先生
16:00～	写真撮影		

～懇親会～

16:30～16:35	開会の辞	愛知県日本歯科大学校友会会長	田中正雄先生
18:30～18:35	閉会の辞	愛知県日本歯科大学校友会副会長	森島浩太郎先生

日本歯科大学校歌

作詞：小暮英男 / 校閲：児玉花外 / 作曲：近藤栢次郎 / 編曲：前田俊明

お お ぞ ら な が る る あ か つ き の
 か ね の ひ び き に あ け そ む る
 ふ よ う は っ だ の す が た こ そ わ
 れ ら が ぼ こ う の ま も り な れ
 ち は よ し く だ ん ふ じ ー み は ら な
 は よ し に ほ ん し か だ い が く

大空流るる暁の

鐘の響きに明け初むる

芙蓉八朶の姿こそ

吾等が母校の守りなれ

地はよし九段富士見原

名はよし日本歯科大学

高鳴る血潮の香をのせて

岸打つ文化の波頭

振り立つべき同胞の

甘幸もたらず学徒われ

地はよし新潟浜の浦

名はよし日本歯科大学

今さし出ずる朝日子の

平和と愛との輝きに

照りそう真紅の光こそ

吾等が母校の使命なれ

地はよし九段富士見原

名はよし日本歯科大学



確実性の高い歯内療法実践のための 技術革新

いがらし まさる
五十嵐 勝

日本歯科大学生命歯学部
歯科保存学講座 教授

歯内療法の実施は、患歯にラバーダム防湿を行い、口腔内の湿潤環境から防湿をはかり、細菌汚染を回避することから始まります。術野を広く確保できるとともに粘膜や歯肉を保護し、器具の嚙下や吸引などの偶発症の防止にも重要な前処置です。歯質の崩壊が激しい歯では、光重合レジンで築盛後、即座に硬化させて隔壁を形成することで対応が可能です。多少の時間と費用は要しますが、その後の医療安全と治療操作のやりやすさ、制腐的処置による成功率の向上には不可欠です。

近年、歯内療法で話題として取り上げられる器機に、歯科用マイクロスコープがあります。肉眼では見えない部位が拡大像として得られ、影のない明るい術野が得られます。口腔内後方にある大白歯でも、照明と鏡視により髓室や根管内の詳細な観察が可能で、盲目的な治療が直視下の処置になってきました。モニターに映し出されるライブ映像は、周囲スタッフも処置への同時参加ができ、保存された画像は患者への説明やプレゼンテーションに活用できます。また、歯内療法処置に限らず、修復処置、補綴処置、歯周処置、インプラント治療、外科処置など広い分野の治療時でも活用されるようになりました。

拡大視野下での歯の切削では、注水の飛び散らない5倍速コントラが使用されます。また最近では回転切削器具に代わる超音波切削チップが各種開発され、切削する場所に応じて器具が選択できます。髓室窩壁や髓床底、根尖切除後の逆根管充填窩洞の形成時など、直視できない狭い部位の切削も可能となりました。

デンタル撮影のデジタル化では、画像処理が容易となり、明るさやコントラストを調整して観察しやすい画像が得られるようになりました。また低照射量で精度の高いCBCTの開発も歯内療法に変化を与えています。デンタル写真に比べて多くの情報が得られ、歯の頬舌断、近遠心断、水平断の多方向からの観察も可能で、根管の走行や分岐の有無など、診査、診断、治療に有用な器機です。

根管の湾曲が強い歯の根管拡大形成では、根尖部の拡大形成が困難です。切削能力が高く強靱なステンレススチール製ファイルでは、湾曲根管の根尖部で外側方向へ直線化し、側方穿孔や根尖孔の破壊が生じます。そこで超弾性を持つNiTiロータリーファイルが応用されるようになりました。1990年頃に根管治療に導入された初代のNiTi合金はファイルが破折しやすかったのですが、形状の改良やトルクコントロールエンジンの開発で対応されてきました。その後、2007年以降の熱処理法の導入によって合金の破断強さが増し、破折は少なくなりました。また、新しく反復運動で回転する器具も登場し、Ni-Tiロータリーファイルの新世代が到来しています。このNi-Tiロータリーファイルにより術者間の技術格差をなくし、根尖部の湾曲を保持した良好な根管形成ができるようになりました。ただし手用のステンレススチール製ファイルがNiTiロータリーファイルにすべて置き換わったわけではありません。まずは手用ファイルで根尖孔まで穿通し、誘導路を形成しなくてはなりません。

本講演では、現在の歯内療法における技術革新をご紹介します、今後の確実性の高い歯内療法が実践されること期待して解説したいと思います。

略 歴

昭和55年	日本歯科大学新潟歯学部	卒業
昭和59年	日本歯科大学大学院	修了（歯学博士）
昭和59年	日本歯科大学新潟歯学部	歯科保存学教室第1講座 助手
昭和60年	日本歯科大学新潟歯学部	歯科保存学教室第1講座 講師
平成4年	日本歯科大学新潟生命歯学部	歯科保存学第1講座 助教授
平成9年	米国ミシガン大学歯学部	CRSE講座 客員准教授（～平成10年）
平成20年	日本歯科大学新潟生命歯学部	歯科保存学第1講座 教授
平成29年	日本歯科大学生命歯学部	歯科保存学講座 教授

〈所属学会〉

日本歯内療法学会（理事長、専門医、指導医）、日本歯科保存学会（理事、専門医・指導医）、日本顕微鏡歯科学会（理事、指導医）、日本歯科医学教育学会（理事）、日本再生歯科医学会（理事）、日本外傷歯学会（理事）、日本歯科医学会（評議員）、日本歯科大学歯学会（評議員）、日本再生医療学会会員、AAE会員、IADR会員 等



今こそメタルフリー接着修復を 活かして！

な ら よういちろう
奈 良 陽 一 郎

日本歯科大学生命歯学部
接着歯科学講座 教授

国民の代表ともいえる患者さんが、今日の歯科医療に求める願い・期待・希望を平易な言葉で表現するならば、「辛くなく、綺麗で、しっかりとした治療」ともいえるのではないのでしょうか。この患者さんの“求め”は、歯科医療に限ったことではなく、医科を含む外科系医療すべてに当てはまります。

一方、アベノミクスと呼ばれる効果が現れているとは言い難い歯科界を取り巻く時勢に目を向けてみますと、納得のいかない歯科バッシングの残像、来院患者数の低迷、希望される処置内容の菲薄化、更には歯科用合金の高騰や技工料金の値上り…等々が存在しています。しかし、治療を希望する患者さんがいらっしゃる以上は、最善の取り組みをもって対応することが我々には求められます。

このような世情をしっかりと受け止め、「辛くなく、綺麗で、しっかりとした治療」の具現化を図りながら、日々の診療を新しい展開へと導く一法として、今こそメタルフリー接着修復を活かす時が訪れています。

ご拝察のとおり、最近のコンポジットレジンやボンディング材をはじめとするレジン系材料を活用した接着性の直接修復は、目を見張る改善進歩の途上にあり、次々に新しい器材が誕生しています。また、間接修復に目を向けてみますと、従前の術者による手技を基本としたアナログ的対応、すなわち、形成、印象・咬合採得、作業模型の作製、蝋形成、埋没、鑄造、試適、装着という繊細なステップを経た修復に代わり、加速度的進展を遂げる医療デジタル化の申し子ともいえるCAD/CAM修復が保険治療にも導入されるようになりました。このような時流の中で、私達は以前より格段に進歩した材料や技術を、豊富な製品群やシステムの中から自由に選び利用できる環境に身を置いていると申せましょう。しかし見方を変えますと、患者さんによって異なる多様な症例や多彩なニーズに応えられるよう、最も有効な術式や器材を適正に選択し、かつ的確に活用することが求

められているともいえます。特に、最小限の侵襲に基づく処置を経て、信頼性に長けた歯質への接着一体化を図り、審美的修復を提供することは、患者さんの“求め”への呼応だけでなく、我われ医療人としての“本望”ではないでしょうか。

そこで今回の講演では、MI修復の首座的対応ともいえるコンポジットレジン直接修復は無論のこと、デジタル修復の担い手となっているメタルフリー材料を活用したCAD/CAM修復の接着実態、お奨め製品の紹介、臨床応用時の勘所などについて、“ザックばらん”にお話しさせていただきます。

限られた時間ではありますが、校友の先生方による明日からの診療に、僅かばかりでもお役に立てるよう、一生懸命努めさせていただきますので、宜しくお願い申し上げます。

略 歴

昭和55年	日本歯科大学歯学部	卒業
昭和59年	日本歯科大学大学院	修了（歯学博士）
	日本歯科大学歯学部	歯科保存学教室第2講座 助手
昭和60年	ハーバード大学歯学部姉妹研究機関フォーサイス歯学研究所	博士取得後研究員（昭和61年まで）
昭和62年	日本歯科大学歯学部	歯科保存学教室第2講座 講師
平成13年	日本歯科大学歯学部	歯科保存学講座 助教授
平成15年	日本歯科大学歯学部	歯科保存学講座 教授
平成24年	日本歯科大学生命歯学部	接着歯科学講座 教授

〈所属学会〉

日本歯科保存学会（常任理事・専門医・指導医）、日本歯科審美学会（理事長・認定医）、日本接着歯学会（理事・認定医）、日本歯科医学教育学会（常任理事）等



歯周治療は変わるか？

なか や ひろし
仲 谷 寛

日本歯科大学附属病院
総合診療科 教授

1965年、ブラッシングを中止すると歯肉炎が発症し、再開により歯肉炎が改善すること、またブラッシングの中止により細菌叢も変化することが示されました。Loëらによる「ヒトにおける実験的歯肉炎」の報告です。歯周治療におけるプラークコントロールの重要性を科学的に明らかにし、近代の歯周治療の夜明けとなった論文といえるでしょう。そして、プラークコントロールが歯周治療の基本であることは、今日でも変わりがないのは周知のことです。そのような中で、不可能と考えられていた歯周組織の再生が可能となったGTR法が1986年に臨床応用されるようになりました。歯周治療に原因除去から新たな1歩が加わりました。新たな検査方法、治療方法を模索して、多くの研究が世界中で進行中です。どんな方法が実際に臨床応用されるようになるのでしょうか。

歯周治療における検査で欠かすことのできないものは、プロービングでしょう。器材は安価であり、使用も簡便であることから臨床現場で極めて有効な検査方法です（簡便ですが、術者の技量に検査結果が大きく左右されることは忘れてはいけません）。現在までにプローブを駆逐するような検査方法の出現は見られません。既に商品化されているものもある細菌検査や歯肉溝滲出液検査は、臨床現場での位置づけはどのようなもののでしょうか。新たな検査はどのようなものが考えられるのでしょうか。

歯周病の原因除去療法は、現在、ブラッシングによるセルフコントロール、スケーリング・ルートプレーニング、明視野でのスケーリング・ルートプレーニングであるフラップ手術、さらに必要に応じて抗菌薬が用いられています。近年ではレーザーもエビデンスが得られるようになり、臨床応用されるようになってきました。コスト面には問題がありますが、非接触にて使用できることから、今後さらに発展することが期待されています。

歯周組織再生療法では、GTR法に続き、新たな治療薬として、遺伝子組換えヒトbFGF（塩基性線維芽細胞成長因子：リグロス®）が健康保険収載され、各診療所でも使用できるよ

うになりました。しかし、リグロス®も魔法の薬ではなく、根尖をこえるところまで骨吸収が進行した歯が元通りになるわけではありません。当然のことながら、手術時に肉芽組織を除去し、根面の清掃が的確に行われなければ、再生を望むことはできません。今後は、水平性骨吸収部位の歯周組織再生の可能性を探るべく、術式の改良が図られるかもしれません。

新しい検査方法、治療方法が、臨床で用いられるためには、安全性、有効性が最も重要であることには異論はないでしょう。しかし、臨床現場ではと考えた場合には、必要とされる技能、コストといった問題も無視することはできません。本講演では、歯周治療の「現在」を踏まえ、「近未来」についても考えてみたいと思います。

略 歴

昭和60年	日本歯科大学歯学部 卒業 (74回)
平成1年	日本歯科大学大学院 修了
	日本歯科大学歯学部歯周病学教室 助手
平成3年	日本歯科大学歯学部歯周病学教室 講師
平成5年	University of Texas Health Science Center at San Antonio へ留学
平成10年	日本歯科大学歯学部歯周病学教室 助教授
平成19年	日本歯科大学附属病院総合診療科 教授

〈所属学会〉

日本歯周病学会 (専門医・指導医) 等

平成29年度
日本歯科大学東海地区歯学研修会準備委員会

準備委員長	志賀博 (75)	日本歯科大学歯学会副会長
準備副委員長	奥沢康彦 (75)	日本歯科大学校友会常務理事
	田中正雄 (66)	愛知県日本歯科大学校友会会長
	大竹和行 (52)	岐阜県日本歯科大学校友会会長
	寺辺勝之 (66)	三重県日本歯科大学校友会会長
	深谷義裕 (61)	静岡県日本歯科大学校友会会長
準備委員	星野周二 (63)	愛知県日本歯科大学校友会副会長
	伊勢美樹 (66)	愛知県日本歯科大学校友会副会長
	森島浩太郎 (71)	愛知県日本歯科大学校友会副会長
	吉田全孝 (70)	愛知県日本歯科大学校友会専務理事
	豊田真彰 (70)	愛知県日本歯科大学校友会常務理事
	粥川涉 (73)	愛知県日本歯科大学校友会常務理事
	鈴木信彦 (75)	愛知県日本歯科大学校友会常務理事
	片田琢也 (78)	愛知県日本歯科大学校友会常務理事
	加藤武司 (81)	愛知県日本歯科大学校友会常務理事

